

スライムを作りました！

児童館と中央公民館ふれあいルームがコラボしました。

児童館は、下佐々の中央児童館と吉見児童館の2館があります。水曜日の放課後は、それぞれの館で活動していますが、今回6月15日、中央公民館で活動しているふれあいルームの子どもたちと一緒にスライム作りに挑戦しました。申し込みがあった20名と当日飛び入り参加の子ども、そして、ALTのパプロ先生、ミア先生とCIRのディラン先生が加わりました。



一人ひとりにプラスチックコップが配られました。コップには3本の線が引かれています。最初、洗濯糊を一番下の線まで入れます。次に色水を入れます。色水は、赤、黄、黄緑、青、ピンクの色ごとのペットボトルに入っています。好きな色を決め、色水を下から2番目の線まで入れます。最後にホウ砂水を3番目の線まで入れます。キラキラのビーズやラメを混ぜるとひとつバージョンアップできます。これを割りばしで混ぜていくとおもちのようにのびる、のびる。「わーできた。できたできた。」「わーすごい。アイスみたい。」の歓声が響き渡ります。割りばしについたスライムをどこまでのびるか競争している子どももいます。手につくとネバネバが嫌なの

かおそろおそろ触っています。両手でスライムをつかんでいる子どもはいないと思います。やっぱり高学年生。おにぎりをつくる要領で楽しんでます。その中でも手で大きくスライムをのばして遊んでいたのは、ディラン先生でした。

スライムは本来、どろどろ、ぬるぬるしたものを大ざっぱに指す言葉でした。アメリカ合衆国の玩具メーカーのマテルにより、1976年出荷されています。1978年、日本で発売され、小学生を中心に250万個売れたといわれています。スライムそもそもは、第2次世界大戦のときにゴムの産地であった東南アジアの地域を日本軍に占領され、ゴム不足となったアメリカで、人工的にゴムを作ろうとして生まれたものでした。また、アメリカで樹脂から化粧品を製造しようとした過程でつくられたとの説もあります。

中央公民館の玄関前で、子どもたちと海外から来られた先生方と交流している姿を見ると、スライムが結ぶ縁を感じました。

(令和4年6月19日)